



【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。
「人のいるところには夢がある」2026年には創業50周年を迎えるジャパン・アーツの理念です。
どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、人々に夢・希望・生きる力を
与えてくれます。これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに
掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
今年も引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。



◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆

<年間サポート>

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 M.I. 岩村 和央 上村 憲裕 榎本 英二 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子 K.K.
北村 眞 R.K. 新貝 康司 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎 東條 Lilly 苫米地 英人
K.N. E.N. 兒子 弥生 S.N. 長谷川 智子 T.H. 樋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣
細沼 康子 M.H. 松尾 芳樹 真野 美千代 三木谷 晴子 安田 牧子 山川 和子 (匿名希望12名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社青林堂
三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

<館野泉バースデープロジェクト「みんなで祝おう!卒寿記念コンサート」>

稲垣 美晴 えこ 上原 洋子 久間 和子 佐々木 暁子 スオミ・ピアノ・スクール研究会
鈴木 早苗 館野泉ファンクラブ 中村 康江 林 幸仁 平山 美由紀 湯本 早百合 (匿名希望1名)

<ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

石坂 雅美 K.I. K.K. Y.K. 佐久間 隆弥 Rimiko N.S. 竹内 麻里子 中尾 圭吾 T.H.
樋口 美枝子 K.F. 細沼 康子 M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 ロロコミ (匿名希望11名)

<ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

江田 明子 T.O. K.K. 佐久間 隆弥 Rimiko 竹内 麻里子 M.T. 平山 美由紀
細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子 ロロコミ (匿名希望9名)

<千住真理子に「花を贈ろう!」プロジェクト>

石坂 雅美 北村 眞 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 田中 治郎
H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子 (匿名希望7名)

2025年8月31日現在 五十音順、敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

～ 愛と平和への祈りをこめて Vol.15～

森 麻季

ソプラノ・リサイタル

ピアノ:山岸 茂人
Shigeto Yamagishi, Piano

Alaki
Aori
Soprano Recital 2025

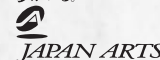
幸せを夢見るヒロインたち
～伝えたい美しい詩 Beautiful Songs

2025年9月13日(土) 14:00開演
東京オペラシティ コンサートホール

2:00p.m., Saturday, September 13, 2025 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催:ジャパン・アーツ

人のいるところには
夢がある。



Program

カントループ:「オーヴェルニュの歌」より バイレロ

J. Canteloube: Bailero “Chants d’Auvergne”

マスネ:「エロディアード」より サロメのアリア “彼は優しい人”

J. Massenet: Il est doux, il est bon “Hérodiade”

ナディア・ブーランジェ:讃美歌

N. Boulanger: Cantique

ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ(ピアノ・ソロ)

M. Ravel: Pavane pour une infante défunte (*Piano solo*)

ヴェルディ:「椿姫」より “ああ、そはかの人か” ～ “花から花へ”

G. Verdi: è strano Sempre libera “La Traviata”

リスト:ペトラルカのソネット 第104番 (《巡礼の年》第2年 イタリア より) (ピアノ・ソロ)

F. Liszt: Sonetto 104 del Petrarca (from “Années de Pèlerinage” deuxième année-Italie) (*Piano solo*)

L.レーフィチェ:雲の影

L. Refice: Ombra di nube

プッチーニ:「蝶々夫人」より “ある晴れた日に”

G. Puccini: Un bel dì, vedremo “Madama Butterfly”



ベッリーニ:「ノルマ」より “清らかな女神よ”

V. Bellini: Casta Diva “Norma”

ヴァーグナー＝リスト:イゾルデの愛の死(歌劇《トリスタンとイゾルデ》より) (ピアノ・ソロ)

R. Wagner = F. Liszt: Isoldens Liebestod (from “Tristan und Isolde”) (*Piano solo*)

グリーグ:「ペール・ギント」より ソルヴェイグの歌

E. Grieg: Solveigs Sang (Solveig’s Song) “Peer Gynt”

ドヴォルザーク:「ルサルカ」より “月に寄せる歌”

A. Dvořák: Song to the Moon “Rusalka”

グラナドス:嘆き またはマハと夜鳴きうぐいす(組曲《ゴイエスカス》第1部 より)

E. Granados: Quejas o La maja y el ruiseñor (from “Goyescas” primera parte) (*Piano solo*) (ピアノ・ソロ)

ナディア・ブーランジェ:海

N. Boulanger: La mer

マスネ:「タイス」より タイスの瞑想曲にのせて

“あなたは覚えているかしら? あの光輝く旅を”

J. Massenet: Thaïs Méditation “Thaïs”

Program Notes

柿沼 唯(作曲家)



J.カントループ:「オーヴェルニュの歌」より バイレロ

パリでV.ダンディに師事したジョセフ・カントループ(1879－1957)の代表作「オーヴェルニュの歌」は、彼の故郷であるフランス中部のオーヴェルニュ地方に古くから伝わる民謡を、色彩感あふれる和声付けによる編曲で5つの曲集(全27曲)にまとめた作品。丘と谷が織りなす美しい自然の中で、主に羊の放牧をして暮らしてきたオーヴェルニュの人々は、北方のケルト系の血を引くといわれ、その音楽にはケルトの宗教的祭礼の痕跡が認められるほか、アンダルシアやムーア人の音楽の要素も混ざっており、貴重な音楽遺産となっている。

今回歌われる＜バイレロ＞は、第1集の第2曲に収められた高地オーヴェルニュの羊飼いの歌。バイレロとはヨーデルと同様に羊飼いが遠くの人に呼びかけるかけ声で、村娘が川の向こうの羊飼いに呼びかける様子を描く。

J.マスネ:「エロディアード」より サロメのアリア “彼は優しい人”

ジュール・マスネ(1842－1912)のオペラといえば、「マノン」や「タイス」などの叙情的な作品がよく知られているが、3つのグランド・オペラの一つである「エロディアード」は、対照的に力強いドラマを展開する作品。題材は新約聖書のいわゆるサロメの物語で、G.フローベールの小説に基づいている(有名なR.シュトラウスのオペラはO.ワイルドの小説に基づく)。踊り子サロメは自分が王妃エロディアードの娘であることを知らず、母を探し求めてさまようが、砂漠で洗礼者ジャン(ヨハネ)に会い、彼の説教と美貌に魅せられてしまう。アリア”彼は優しい人”は、サロメ登場の場面でジャンへの憧れを歌い上げる一曲。

N.ブーランジェ:讃美歌

ナディア・ブーランジェ(1887－1979)の名は、20世紀の優れた作曲家を育てた名教師として知られている。10歳でパリ音楽院に入学した彼女は、オルガンをアレクサンドル・ギルマンとルイ・ヴィエルヌに、作曲をシャルル＝マリー・ヴィドールとガブリエル・フォーレに、伴奏法をポール・ヴィダルに師事し、優秀な成績で卒業後、オルガニストや指揮者としての活動と平行して幾多の音楽院で教鞭を執り、生涯にわたり多くの門弟を育てた。その中にはアーロン・コープランドやヴァージル・トムソンなどのアメリカの作曲家や、タンゴ音楽の新潮流を生み出したアストル・ピアソラも含まれている。彼女は優れた力量をもつ作曲家であったが、残された作品は数少ない。今回は歌曲が2曲演奏される。

＜讃美歌＞は、「ペレアスとメリザンド」の戯曲作者であるM.メーテルリンクの詩を淡々と、情感を内に秘めた旋律で歌い上げる一曲。

G.ヴェルディ:「椿姫」より“ああ、そはかの人か”～“花から花へ”

ジュゼッペ・ヴェルディ(1813－1901)の代名詞ともいえる人気オペラ「椿姫」。華やかなパリの社交界で真実の恋に生きた女性の悲劇を描いたこのオペラ第1幕の名高いアリア“ああ、そはかの人か”～“花から花へ”は、高級娼婦として歓楽に憂き身をやつしているヴィオレッタが、純情な青年アルフレードに心を打たれ、真実の恋に目覚める場面で歌われる。「不思議だわ!心にあの言葉が刻み込まれてしまった。ああ、私の知らなかった愛し愛される喜び」と心ときめかせた後で、「どうかしているわ!空しい妄想だわ」と娼婦の自分に戻り、「いつも自由に楽しみにうつつを抜かすのだわ。陽気に、いつも新しい歓びに思いを馳せるのよ」と歌い上げる。初めて真の愛を知った喜びの一方で、その感情に戸惑うヴィオレッタの複雑な心境が見事に表現されている。

L.レーフィチェ:雲の影

リシニオ・レーフィチェ(1883－1954)は、司祭としての宗教活動のかたわら作曲家として2曲のオペラを完成させ、中でも1934年に初演されたオペラ「チェチャーリア」は、グレゴリオ聖歌を採り入れた神秘的な作風でセンセーショナルな成功を収めた。彼は、ヴェネツィアのサン・マルコ大聖堂の楽長を務めたロレンツォ・ペロージとともに、20世紀イタリアの教会音楽に新潮流をもたらした人物として知られている。ここで歌われる＜雲の影＞(1935)は、名だたるオペラ歌手のレパートリーとして親しまれている一曲。詩は「チェチャーリア」の台本を手がけたエミーディオ・ムッチ。

G.プッチーニ:「蝶々夫人」より“ある晴れた日に”

「蝶々夫人」は、長崎を舞台とした異国情緒豊かなオペラとして、世界的人気を博しているが、その最大の魅力は何といってもジャコモ・プッチーニ(1858－1924)特有の旋律美にあるといえるだろう。“ある晴れた日に”は、数あるプッチーニの名歌の中でもとりわけ名高い名旋律。海軍士官ピンカートンの帰りを信じて、「ある晴れた日、海の向こうに一筋の煙が上がり」と歌い出されるこの曲は、ピンカートンの乗艦が入港して彼が坂道を上ってくる時の様子を想像しながら、自らの心を慰める。曲中、蝶々さんの悲しい運命を暗示するような部分が現れるなど、その劇的な効果も聴きどころといえよう。

V.ベッリーニ:「ノルマ」より“清らかな女神よ”

リストやショパンにも影響を与えたという極上のリリシズムで知られるヴィンチェンツォ・ベッリーニ(1801－1835)のオペラの魅力は、何よりその甘美なメロディと、簡潔ながら聴き手の感受性に強烈

に訴える音楽にある。「ノルマ」はその代表作としてあまりにも名高い。巫女の長ノルマが第1幕で歌うカヴァティーナ“清らかな女神よ”は、儀式の中で月の女神に「人々の高ぶる心を、あなたの銀色の光で鎮めてください」と祈る、ベッリーニならではの流麗な旋律美あふれる名アリアだ。

E.グリーグ:「ペール・ギュント」より ソルヴェイグの歌

有名な＜ピアノ協奏曲＞で知られるノルウェーの作曲家エドヴァルド・グリーグ(1843－1907)は、150曲にも及ぶ歌曲を残した。美しい叙情の世界にその真価が発揮されるグリーグの音楽にあって、これらの歌曲は独特の魅力にあふれているが、その創作には、歌手であった妻ニーナの存在が大きく関わっていたといわれている。代表作である劇付随音楽「ペール・ギュント」の中にも、グリーグならではの名旋律がある。＜ソルヴェイグの歌＞は、放浪者のペールを長年待ち続ける村娘ソルヴェイグが歌う、哀愁と清純な魅力にあふれた一曲。民謡調の素朴な旋律から醸し出される情感の深さは、例えようがない。

A.ドヴォルザーク:「ルサルカ」より“月に寄せる歌”

アントニン・ドヴォルザーク(1841－1904)のオペラ代表作「ルサルカ」は、水の妖精ルサルカの悲しい恋の物語。“月に寄せる歌”は、美しい王子に恋するルサルカが月に向かって、自分の思いを恋人に伝えておくれと歌うアリア。ルサルカ登場の場面で歌われる。その後ルサルカは魔法使いイエジババに人間の姿に変えてもらうが、その条件として、人間の姿の間はしゃべることができないこと、そしてもし相手が裏切ったときは、その相手とともに水の底に沈むという運命を背負うこととなる。

N.ブーランジェ:海

ポール・ヴェルレーヌの詩によるドラマティックで情熱的な一曲。旋律の深い情緒に寄り添って紡がれる和声はフォーレを想わせる。

J.マスネ:「タイス」より タイスの瞑想曲にのせて

“あなたは覚えているかしら? あの光り輝く旅を”

今日ではヴァイオリン独奏曲として大変ポピュラーな「タイスの瞑想曲」。もともとは、歌劇「タイス」第2幕の間奏曲として作曲されたもので、曲は、享楽の生活を送る娼婦タイスを、僧侶アタナエルが神の教えによって改心させようとしながらも、その美しさに魅かれる心の葛藤を表している。今回はこの名旋律に歌詞をのせて…

「愛と平和への祈りをこめて」15年目を迎えて

歌うことは、祈ること——。この思いを胸に、「愛と平和への祈りをこめて」というリサイタルを始めてから、今年で15年の節目を迎えることとなりました。毎年この舞台上、音楽を通して皆さまと心を通わせ、平和への願いを新たにできることに、深い感謝の気持ちを抱いています。

このコンサートが始まったのは、2011年の東日本大震災の年でした。震災を経験した私たちは、大きな悲しみの中で、命の尊さ、そして人と人とのつながりの大切さを改めて考えさせられました。そして、その祈りを歌に込め、多くの方と分かち合いたいという思いから、このリサイタルが生まれました。15年経った今も、その思いは変わることなく、むしろ年を重ねるごとに強くなっています。

音楽には、人の心を癒し、支え、希望を与える力があります。古来より、人は喜びの時にも悲しみの時にも歌を口ずさんできました。それは、歌が単なる旋律ではなく、心の奥底から湧き上がる祈りそのものであるからでしょう。東日本大震災の直後、「今、何が必要ですか？」という問いに、多くの人が「心を満たすものがほしい」と答えました。物資が足りない状況の中でも、人々は心の拠り所を求めていたのです。そして、その答えの一つが「歌」でした。音楽が持つ力、それは人々の心に寄り添い、痛みを和らげ、希望へと導くものだと、改めて気づかされました。

世界を見渡せば、今もなお戦争や自然災害によって、多くの人々が苦しみ、不安の中で暮らしています。そんな時こそ、音楽が持つ力を信じ、平和への願いを込めて歌いたい。音楽を通じて、愛と希望を届けることができると信じています。

この15年、私は歌い続けることで多くのことを学びました。声という楽器を磨くことは、生涯をかけた挑戦です。そして、その歌を通じて、人々の心に寄り添い、何かを伝えることができるのなら、それは私にとって何よりの喜びです。

音楽は、言葉を超えて人と人の心をつなぎます。

このコンサートが、皆さまにとって、大切な人を想い、愛と平和に心を寄せるひとときとなることを願っています。祈りの歌が、皆さまの心にそっと寄り添い、明日への希望となりますように。どうぞ、この特別な時間を、ぜひ一緒にお過ごしください。




©Yuji Hori

森 麻季 Maki Mori, Soprano

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。プラシド・ドミンゴ世界オペラコンクールをはじめ、多数の国際コンクールに上位入賞。1998年ワシントン・ナショナル・オペラ《後宮からの逃走》でアメリカ・デビュー以来。ワシントンとロサンジェルス・オペラにおいて《リゴレット》《パルシファル》《ホフマン物語》《こうもり》《ヴェルテル》でドミンゴ、アラニーヤ、オブラストワ等と共演。ルイージ指揮ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、ノセダ指揮トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》では、フリットリやアルヴァレスと共演し、国際的な評価を高める。近年では鈴木優人プロデュースBCJオペラ《ボッペアの戴冠》《リナルド》《ジュリオ・チェザレ》《魔笛》《ドン・ジョヴァンニ》に出演を重ね、その存在感にいずれも絶賛を博す。2023年BBCプロムスにデビュー。2024年山田和樹指揮&バーミンガム市響《蝶々夫人》のタイトルロールは英国の聴衆から喝采をあげる。コンサートではアシュケナージ、テミルカーノフ、インバル、小澤征爾、チョン・ミュンフン、パーヴォ・ヤルヴィ等の著名指揮者やNHK交響楽団、フランクフルト放響等の内外の主要オーケストラと共演し成功を収める。人気と実力を兼ね備え、透明感のある美声と深い音楽性に定評を持ち、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」メインテーマやNHK東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を歌うなど、日本を代表するオペラ歌手として常に注目をあびる。今秋はモーツァルト「羊飼いの王様（エリザ）」に、来年2月には「フィガロの結婚（伯爵夫人）」に出演予定。CDはエイベックス・クラシックスよりリリース。国立音楽大学客員教授、東京音楽大学特任教授、東京藝術大学でも教鞭を執る。ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。

X(旧Twitter): https://twitter.com/makimori_sop

Facebook: <https://www.facebook.com/MakiMori.sop/>

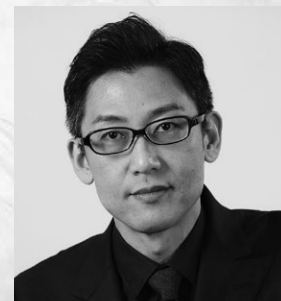
Instagram: https://www.instagram.com/makimori_sop/



©Yuji Hori

山岸 茂人 Shigeto Yamagishi, Piano

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学大学院（音楽学専攻）修了。在学中に安宅賞受賞。古典から近代にわたるイタリア歌曲を嶺貞子氏に、ドイツ歌曲を佐々木成子、ライナー・ホフマン各氏より学ぶ。ピアノを川口恒子、渡辺健二、高出紘子の諸氏に、また、音楽学を船山隆、本田脩の各氏に師事。声楽の伴奏者としては演奏家から常に深く信頼され、これまで著名な歌手と数多く共演を重ねる。森麻季とは30年来のコンビで、熟練の技は全国の聴衆を魅了する。現在、東京藝術大学声楽科伴奏助手、二期会イタリア歌曲研究会ピアニスト。



撮影：横井明彦